

高等学校・入学年次・保健体育・器械運動（マット運動）①

育成を目指す資質・能力

（1）知識及び技能

次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

（2）思考力、判断力、表現力等

技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

（3）学びに向かう力、人間性等

器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。

ICT活用のポイント

- ・ICT端末の活用により、各自が技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
- ・撮影した動画を仲間同士で確認して助言したりすることなどを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要

導入

- クラウド上に保存されている前時の自己の動きと模範動画とを対比することで、自己の学習の実現状況及び個別の課題を把握する。

展開

- 個人での課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通じて、協働的な学びの充実を図る。

まとめ

- 前時に撮影した動画と本時に撮影した動画を比較し、自己の変容を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。

授業終了後

- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

高等学校・入学年次・保健体育・器械運動（マット運動）②

～ICT端末の動画撮影機能を使い、自己の課題を思考し判断するとともに仲間の課題や出来映えを伝える～

【事例におけるICT活用のポイント①】



【ICT端末、クラウドの活用のメリット】

【生徒の支援】

- 授業導入時にクラウドに保存されている前時までの自己の動きを確認し、各自が課題を把握した上で個別の課題設定に応じた練習方法や練習の場を選択して活動する。
- 同じ課題を持つ仲間同士で技を行う様子を撮影し、模範動画の動きと仲間の動きを比較しながら、仲間の課題や出来映えを伝える。
- 前時に撮影した動画と、本時の展開の場面で撮影した動画を比較し、本時の目標の達成状況を確認するとともに動画をクラウドに保存する。
- クラウド内に保存されている自己評価シートや学習カードなどのファイルを開き、振り返ったことを記入し、データを保存する。

【事例におけるICT活用のポイント②】



【教師の支援】

- ◆ 教師が生徒の自己評価シートや学習カードの内容を一覧にして確認したり、コメントを記入したりすることで、業務の効率化を図る。
- ◆ 「大量の文章データから有益な情報を取り出すソフト」などを活用し、クラウドに保存された生徒の自己評価シートや学習カードの記述内容から、教師が生徒の目標の達成状況や課題を考察し、授業改善に生かす。

品詞	単語	出現回数	割合	注目
名詞	マット	15	0.15	
動詞	行う	10	0.10	
名詞	課題	8	0.08	
名詞	目標	7	0.07	
名詞	達成	6	0.06	
名詞	状況	5	0.05	
名詞	確認	4	0.04	
名詞	比較	3	0.03	
名詞	動画	2	0.02	
名詞	仲間	2	0.02	
名詞	出来映え	2	0.02	
名詞	伝	2	0.02	
名詞	伝える	2	0.02	
名詞	振り返	2	0.02	
名詞	記録	2	0.02	
名詞	データ	2	0.02	
名詞	活用	2	0.02	
名詞	ソフト	2	0.02	
名詞	情報	2	0.02	
名詞	有益	2	0.02	
名詞	考察	2	0.02	
名詞	改善	2	0.02	
名詞	生か	2	0.02	
名詞	生かす	2	0.02	

【事例におけるICT活用のポイント③】



【活用したソフトや機能】 動画撮影機能、テキストマイニング（文章解析ソフト）